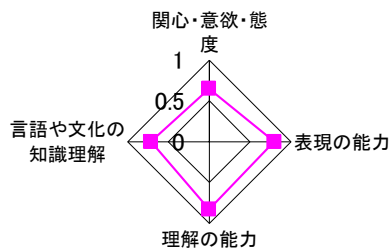


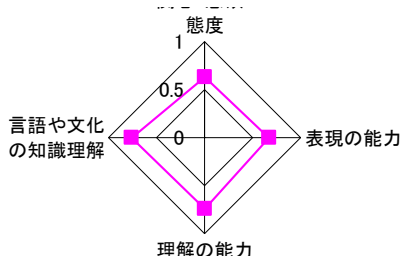
**内容別・観点別の分析 (様式2)**

1年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	65%
表現の能力	80%
理解の能力	83%
言語や文化の知識理解	71%



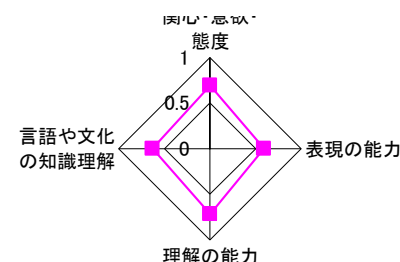
定期考査及び7月までの指導状況の分析

2年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	63%
表現の能力	67%
理解の能力	74%
言語や文化の知識理解	76%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

3年	観点別平均正答率
関心・意欲・態度	69%
表現の能力	59%
理解の能力	72%
言語や文化の知識理解	63%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

**指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画 (様式3)**

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	単語テスト、リスニングテストを小単元終了ごとに行い、語彙力リスニング力を定着させ、振り返ることができるように努めてきた。しかし、読むこと書くことを苦手とする生徒が依然として多いと感じている。	スモールステップを大切にし、一人一人が目標を決め、それに向かって取り組めるように声かけなどを頻繁に行い、英語に対する苦手意識が少しでも少なくなるようにしていく必要がある。今後もインタビュー活動などを多く取り入れ、友達同士の学びあいの機会を作る。	・夏季補充教室で基礎力となる音読練習、単語練習に重点を置いて指導する。 ・生徒自身が表現したい文を書いたり話したりできるように、辞書を活用させながら取り組ませる。 ・テスト後のやり直しテストを通して、自らの課題を見つけさせ、つまづきを解決するため個々に質問を受ける。
2年	全体的には英語学習への興味関心も高くスキルアップの必須条件である単語力もついてきている。今後の課題としては、説明文や自分の思いなどを適切な英文で表現(話す・書く)できる能力の育成があげられる。	・興味関心のある事物について5文程度の英語で表現するといったShow&Tellを多用する。 ・オリジナルのスキットを作成し発表する機会を多く設ける。 ・上記の活動の際には和英辞書を活用し、より自分の表現したいことを書いたり言えたりできるようにする。	・夏季補充教室(4日間)を通して基礎力の不足が顕著な生徒を対象に、1年次の復習を行う。 ・Show&Tellなど、自分の興味あるものについて簡単な英語を用いて表現できるよう学習機会をより多く与えていく。 ・定期考査前など質問教室の時間を設け生徒の課題解決のサポートをする。
3年	・昨年度と比較して、小テストなどにも意欲的に取り組む姿勢を見せる生徒が増えてきた。 ・自信をもって自己表現できるような授業中の雰囲気作りや、繰り返し学習が必要である。文法や語彙などを定着させ、活用させるような授業展開を必要とする。	・小テストなどで語彙を定着させ、基本本文を定着させるために、英文練習を強化する。また、復習中心とした書く作業も繰り返し行う。 ・ペアでの英文練習チェックや、インタビュー活動・チャットなどコミュニケーションにより自然と会話できる雰囲気作りを目標とする。	・考査の後にはやり直しノートを活用し自己の課題を見つけ次のテストに向けて取り組ませる。発展的な学習としては自己表現のための英文を書かせ添削する。 ・習熟度別の授業では、個々に合わせて課題を与え解説する。 ・夏季休業中などの補充教室では、数名の生徒を指名し、補充学習を行う。